今月の
ブックトーク

10月「本はお好きですか?」

鈴木 千尋／和光小学校学校司書

読書の秋です。皆さん本は好きですか？今日は、本が出てくる本を紹介します。

『図書館とねことゆうれいと』ある日エヴァン少年は突然現れた青空ミニ図書館を見つけます。そこの本はずっと前に火事で消失したという図書館の本ばかり。しかも返却日は全て火事の起きた日。さらに貸出記録にはお父さんの名前が！謎のポラロイド写真や著名な作家の貸出記録など、ミステリーだらけ。その謎を解き始めますが、どうやら幽霊や猫のモーティマーも関係しているようです。読み進めるごとに真相がわかってきて、夢中で読める1冊です。図書館の本を守ろうと頑張っている猫のモーティマーの行く末にも注目です。



レベッカ・ステッド、ウェンディ・マス・著
三原 泉・訳
偕成社

こちらにも本を愛する猫が出てきます。『くろねこのほんやさん』本が大好きで、子どもの本屋で働き始めたくろねこのバイオレット。子どもたち一人ひとりにぴったりな本を選んでくれるので、大評判に!ところがある日、大雨でバスが来ず、街は水浸し。それ以来、子どもたちが来なくなってしまいました。すっかり元気を失うバイオレットでしたが、むこうが来られないならば…とあるアイディアを思いつきます。さてどんな計画でしょうか。こんな本屋さん、行ってみたいですね！



シンディ・ウーメ・文・絵
福本 友美子・訳
小学館

バイオレットと違って、自分はそんなに本好きではないと思っている人はいませんか?『はじまりは一冊の本!』の主人公・柊斗（しゅうと）もそうでした。読書どころか、自分にはこれといった好きなものがないと思っている柊斗。ある日、学校図書館で調べ物をしていたら、卒業した先輩たちが作った本があることを知りました。子どもが本を作ったことに興味を持ち、作った人に話を聞きに行きます。それをきっかけに本の作り方や歴史、印刷にまで興味を持つように。自分は何かを考えたり調べたりすることが好きだと気がつきます。そしてちょっぴり苦手だった人たちとも関わり方が変わっていきます。柊斗のように、物語の本にはそんなに興味は無いけれど、様々なことを知るための本は好きという人は皆さんの中にもいるのではないでしょうか。いろんな本を楽しんでくださいね。



濱野 京子・作
森川 泉・絵
あかね書房

最後に紹介する本は『ぼくは本のお医者さん』。製本の仕事をしながら、壊れた本を修理するブックスドクターの仕事も始め、5千冊以上の本を治してきた齋藤英世さん。でもその道のりは平坦ではありませんでした。息子さんが保育園の頃、持ち帰った本を修理して喜ばれたことで、修理屋を志します。でもその時はうまくいきませんでした。子どもたちが大きくなってから、もう一度その道を目指したきっかけは、ある絵本でした。最初に修理依頼で持ち込まれた本が、運命的ですよ。本だけでなく、その本を修理して欲しいとやってくる人の気持ちまでをも大切にしている英世さんのお仕事を、皆さんもぜひ知ってください。そして皆さんにも、壊れても修理してずっと持っておきたいような大切な１冊が見つかりますように。



深山 さくら・文
佼成出版社

※「今月のブックトーク」「図書館のこよみ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご活用ください。